

甲陽だより

発行所
西宮市甲子園高瀬町3番7号
甲陽学院同窓会
電話西宮(0798)410622番0523番
郵便番号662
編集人 宮崎武男
印刷所
株式会社 紺谷印刷所
大阪市生野区生野田島町1-537
電話大阪(758)2366番

躍進する同窓会

甲陽学院同窓会会長 宮崎武男

甲陽学院も五十周年の行事を終りすでに半世紀の歴史を造り上げたわけですが、この半世紀の後半は可成りの目まぐるしい変遷があり、更に次の半世紀は目まぐるしいどころか目を見張るような変化が起り得るのではないかと楽しみでもあり不安でもあります。

五十周年の行事について昨年は同窓会の大会も始めて校外で挙行されたのでありますが、これが例となり今年も校外に場所を求めることになって、実行委員の方々に御苦労をかけるようであります。

今年も盛会に行われるものと今から期待しております。

新会則により皆様から年会費金五百円也も徴集というよりもお気持ちよくお届けを願って次々と御送金を頂いている由、なんとも矢張り甲陽ならではの感を深くしております。お陰様で同窓会の経常費を差引いて、さ、やかながらも学校ご当局にお願いで体育その他クラブ活動のお役に立つ一助にも金式拾万円を寄附させてもらうことが出来ました。

本来このような意図も含まれての年会費制度の発想だけに今後ますます年会費を進んでお払込を願ひ、同窓会の諸事業には勿論の事ですが、この方にも段々と額を増やせるよう

せてもらいます。役員委員の各位は勿論、会議に使つて頂いておりますが同窓会館の夢は未だですが、母校にお立寄りの際には是非いい場所としてご利用して頂けることでしょうか。学校(法人)と共に躍進する同窓会を同窓の皆さんの力で盛り上げてまいりましょう。

谷本松視先生退職される

谷本松視先生には、今春三月御病氣養生のため突然御退職なさいました。先生には、昭和十六年御就任以来約二十八年の永きにわたつて、戦中戦後の混乱期の中、本学院の数学教諭としてまた教務主任・中学教頭として、学院発展のため多大の功績を収められました。同窓会は先生の御功績を称え、御在職中の御苦勞に対し感謝の意を表すべく、過日、合田専務理事が会長代行として御挨拶申し上げ、御餞別を差し上げました。ここに会員諸兄に御報告するとともに、先生の御快癒をお祈りする次第です。

退職ご挨拶

谷本松視

全く予想もしなかつた病氣療養のために、これ又全く予期しなかつた時期に甲陽学院を退職させていただきます。願ひますれば、昭和十六年七月以来四十四年三月まで約二十八年、戦中、戦後の時代にわたりまして、学校も色々変化が多くございました。その長い間、私ごとき浅学非才の者が、私なりの生き方を一貫して続けさせていただき、至らぬ事も数多く有りながら、ますます大過なく過ぎていたいただきましたことは、これひとえに、甲陽学院関係の皆様、並びに卒業生の皆様のご理解とご厚情の賜と衷心より感謝申し上げます。

近年学校は、年を追つて向上発展し、同窓会は内容、形式共にますます整備発展いたされ、喜ばしい次第に存じます。今後、学院並びに同窓会の更に一層のご発展を願つてやみません。

この上は専心養生いたしまして再び活力を取りもどし、意義ある人生を過したいものと考えております。

なお、先般退職に際しましては、同窓会専務理事合田様には、わざわざ中学校までおいで下され、ご丁寧なるご挨拶をいただき、又同窓会より過分のご餞別を頂戴いたしまして誠に有難うございました。学院便りの紙上を借りまして皆様には厚く御礼申し上げます。

会員大会御案内

- 一、日 時 八月二十四日(日)午後二時
- 一、場 所 宝塚ホテル
- 一、会 費 一五〇〇円

付記

- 一、同窓会新発足による第二回の「会員大会」(従来の総会)を多数の御希望に依り校外で開催致します。昨年同様会員諸兄お誘い合せの上多数御参加下さい。
- 二、新入会員(新卒生)は無料招待になっていますが、会場準備の都合上、葉書で同窓会宛に出席通知を必ず八月十日までに出して下さい。
- 三、一般会員も準備の都合上、同封振替用紙により前金で、八月十日までに必着で御送金下さい。

なお御便宜上、左記銀行に甲陽学院同窓会宛として払込んで頂いても結構です。
神戸銀行今津支店
三和銀行夙川支店

甲陽学院の近況について

学校長 林 連 一

昨年の秋ごろから高校も激しい大学紛争の影響を受けて、本校では別に変つたことありませんでしたが、四囲の情勢は必ずしも平穏無事とばかりはゆかなくなつて来つた。あるように思われます。問題を起した高校の表情はいろいろですが、その主な原因は、最近一部の高校生の間に実際の政治活動が活発に行なわれるようになって来たといふことにあるようです。では、なぜそうなつて来たかと申しますと、最近高校生の中には、直接大學生の指導を受けたり、また自分自身で、ベトナム戦争や沖縄返還問題や七十年安保問題等に対して強い関心をもつ者が急増して来つたり、今日の政治・経済・社会の仕組み等について大人への不信感を抱くものが出て来たからだと言へるかと思ひます。しかし、その原因を更に深く掘り下げてみますと、進学中心主義といわれる今日の高校教育の在り方や、大学入試に対する受験生のストレスや、戦後大人の価値判断に対する自信の喪失とこれに伴う家庭教育の在り方などが遠因になつて居るとも考えられます。今日の高校には、大学における紛争と同じように、このような

大きな問題をかゝえておられます。大学紛争の他の面での大きな影響は、何といつても東大入試の停止でした。普通ならば本校からは自信のある連中が少くとも四十名余りは東大に受験するのですが、それらの連中はもちろん、卒業生の大多数がいわゆる一流大学に受験する本校の如きは特に大きな痛手を受けた学校の一つだつたと言へるでしょう。そこで今年の進学状況を表で示しますと左の(1)(2)(3)のようになります。

京大へ五〇・一五五、阪大へ四〇・一四五、神大へ二五・三〇、...といつたような私の希望の予想には今一步という感が以上にも激甚だつたこれらの大学の実情を聞いてみると、この程度で満足すべきであつたのかも知れませぬ。

卒業生の中には聞いてびっくりなさる方があるかも知れませんが、本校では去る四月二十二日付をもつて、頭髮についてのこれまで丸刈の規制を解くことにいたしましたのであります。丸刈の長所は一応理解できても、学校が強く規制して自分たちの自由を束縛しているのだと解釈して反発を試みたり、髪を伸ばすことによつて何か自分が一段と人間として成長したような感じを抱いたり、またカツコいという青年の心理も手伝つたり、また複雑な最近の学生運動の影響などもあつて、いくらか話をして見ても、それだけではなかなか素直には受け取つて呉れない生徒が可成り増えて来たように思われます。最近こうした

(1)国立大学

| 大学名 | 現役 | 浪人 | 計 | 昨年 |
|-----|----|----|-----|-----|
| 京大 | 33 | 13 | 46 | 46 |
| 阪大 | 17 | 17 | 34 | 24 |
| 神大 | 9 | 15 | 24 | 8 |
| 東工大 | 2 | 1 | 3 | 0 |
| 一橋 | 2 | 0 | 2 | 5 |
| 東外大 | 0 | 2 | 2 | 0 |
| 名工大 | 1 | 3 | 4 | 0 |
| 静大 | 2 | 1 | 3 | 0 |
| その他 | 4 | 12 | 16 | 39 |
| 合計 | 70 | 65 | 135 | 122 |

(2)公立大学

| 大学名 | 現役 | 浪人 | 計 | 昨年 |
|-----|----|----|----|----|
| 大市大 | 2 | 1 | 3 | 2 |
| 神商大 | 0 | 9 | 9 | 6 |
| 姫工大 | 2 | 1 | 3 | 1 |
| 岐葉大 | 2 | 1 | 3 | 0 |
| その他 | 0 | 6 | 6 | 4 |
| 合計 | 6 | 18 | 24 | 13 |

(3)私立大学

| 大学名 | 現役 | 浪人 | 計 | 昨年 |
|-----|----|-----|-----|-----|
| 開学大 | 12 | 36 | 48 | 22 |
| 立命館 | 0 | 7 | 7 | 3 |
| 同志社 | 2 | 16 | 18 | 15 |
| 関西大 | 0 | 9 | 9 | 5 |
| 大医大 | 2 | 4 | 6 | 0 |
| 甲南大 | 0 | 5 | 5 | 1 |
| 慶大 | 8 | 10 | 18 | 24 |
| 早大 | 2 | 36 | 38 | 32 |
| その他 | 4 | 10 | 14 | 15 |
| 合計 | 30 | 131 | 163 | 117 |

風潮が各高校で高まつて来、本校だけの問題でなくなつて来たところに「時代の流れ」を痛感させられるようになつて参りました。そこで、本問題は遠くから何と処理しなければならぬ、と考へていたところへ、「丸刈の規制を解いて欲しい」と生徒会から正式の要望がありましたので、職員と生徒との話し合いの場をもち、更に職員会議の結果、学校としては、この要求を上述のような「時代の流れ」として受け止め、生徒たちの自覚とその上に立つ自主性を信頼して、茲にその要望を認めてやることに踏み切つたのであります。

更に、学校では、今年度の大事業として、六〇万円余の巨費を投じて長年の懸案であつた運動場の整備をすることに決定をいたしました。目下のところ、工事は夏休みを利用することにならうかと思ひますが、これが完成の時は、大雨のあとの水溜りなど少しの心配もなく運動場使用の計画が立てられるものとして生徒たちは大きな期待をもつて居るようです。

同窓生各位に御礼を申し上げることが一番あと回しになりましたが、先般は同窓会から生徒会活動のために多額のご寄附を頂きまして誠に厚く御礼申し上げます。このご寄附の使途につきましては生徒会ともよく話し合ひまして、先輩各位のご厚志に報い得るよう十分指導して参りたいと思つております。以上御礼並びに近況ご報告申し上げます。

同窓会委員会歩み

同窓会の独立の事務らしきものを始めて参年になりました。漸く基礎的なものが生まれ初めたような気がして来ました。四十四年度を迎える為、独立会計的なような事などで四十三年度を振り返つて見ると、やつと今まで学校の同窓の先生方の御苦勞が大変であつたと痛切に感じられるのです。理事や委員さんの御力添えによつて益々充実した同窓会に仕上げたい念願に燃えている次第です。

◎昭和四十四年

- 一・二五 「甲陽だより」第九号発行最終打合せ
- 二・一一 高等学校卒業式参列
- 二・一一 原副会長(会長代理) 祝辞
- 二・一一 甲陽高等学校の卒業式は例年二月十一日に決定して居りますので同窓の方の参列を希望いたします
- 三・二〇 同窓会・副会長・常任理事・常任監事・同・四十三年度事業報告計画及び予算表等の審議
- 四・七 理事會、委員会(総会)開催決議、二〇の審議事項についての決議、及び会則一部改正(別記載のもの)
- 五・一三 大会実行委員の選定、場所、日時、場所 宝塚ホテル
- 五・二六 一、名札(出席者全員に対する招待者の範囲、法人全員、旧職員は校内常務理事選定に兼任、現職員 方法(往復ハガキに依る) 染抜き手拭を記念品として配布
- 一、高橋校舎の染抜き手拭を記念品として配布
- 一、各卒業生別同期別に出来る限り誘い合う事を決定

理事会・総会開催報告

理 事 会

四月七日、同窓会事務室において総会に提出する左記事項について理事会を開催。審議の結果承認を得る。

- 一、昭和四十三年度事業報告及び決算報告（別記）
- 一、昭和四十四年度事業計画及び予算案（別記）
- 一、会則一部改正

1. 第四章「役員」の第六条第三項「理事若干名うち常任理事若干名」とあるのを「理事若干名（うち専務理事一名、常務理事若干名）」に改正。
2. 同じく第六条第四項「監事三名」とあるのを「監事三名（うち常任監事一名）」に改正。
3. 同じく第七条第三項「常任理事は理事会において互選する」とあるのを「専務理事および常務理事は理事会において互選する。」に改正。
4. 同じく第八条第三項「常任理事は会長長の旨をうけて……」を「専務理事は会長長の旨をうけて……」に改正。

総 会

四月七日午後八時から生徒会室において総会を開催。理事会において承認を得た前記事項を原案として提出。審議の結果原案通りに可決。直ちに改正会則により、専務理事に合田孝治氏（一回卒）、常任監事に伊東栄氏（一回卒）が就任。

なお、今年度の「会員大会」を校内、校外のいずれで行うかの件につき種々意見が出たが、結論的には本年も校外で開催することに満場一致にて決定、その準備委員は会長の一

任となり、後日会長委嘱により改めて大会の方法・運営を準備委員会にて決定することとして散会する。

（付 記）

昨年同窓会会則施行により、委員会を以つて総会とすることは決められていたが、実質的発足は本年度からであつて、初会合としては出席委員の数が今一つ少教であつた。しかし、円滑に審議が続けられたことは感謝の他ない。ただ、夜間に今後行うか、日曜日等の昼間に行うかは研究すべき点があるのではないかと思われる。

（合田記）

昭和四十三年度 事業報告

「学校、育英会と共に歩む同窓会」の理念にもとづいて発足した年度であります。幸い会員各位の御協力によつてその何分の一かを表現させて頂いております。

本年度は、法人、学校側の御好意により、学校内に同窓会事務室を設置していただき、事務整理、連絡等に使用しておりますが、このことは既に「甲陽だより」八、九号に記載した通りです。年会費の協力者も当初の予想を大きく上廻つてはおりますが、まだ満足すべき所までには至っておりませんが、同窓会整備の一端である著書、写真等の蒐集も徐々に進んでおります。随分貴重な書物の寄贈などもうけており感謝にたえません。名簿原簿カードの整備も着々と進んでおり、会員相互の状況をより確実にしたいという念願も逐次実現つて、あります。

従来の夏期の総会も、会則改正に伴つて委員会を以て総会とすることにし、その代りに、会員大会を開催して会員相互の懇親を第一目標とし、昨年は校外（玉塚ホテル）で行つたのですが、多数会員の出席を得、一応成功だったと思つております。今後は更に連絡の方法、

大会の内容なども検討、改善し、殊に中間層の人々の参加を得て逐年盛大なものになるよう努力したいと思います。重複しますが本年度の同窓会の歩みを列記します。

昭和四十三年

四月十六日 委員会部会 行事予定細部審議
五月七日 「甲陽だより」発行 打合せ

五月十三日 理事会 各部委員委嘱
七月二十七日 「 大会開催細部打合せ
同窓会事務室設置に伴う専任事務員採用

八月十三日 委員会 大会開催後始末
十月十六日 理事会 次期大会開催方法、事務室設置に伴う備品購入審議「甲陽だより」発行打合せ

十月三十一日 委員会 「甲陽だより」発行方法
十一月二十六日 学校側と同窓会懇談会
十二月三日 委員会 「甲陽だより」原稿整理

昭和四十四年

一月十日 育英会長、校長に新年の挨拶
一月二十五日 委員会 「甲陽だより」発行最終打合せ

二月十一日 高校卒業式に参列、祝辞
三月二十日 会長、副会長、常務理事、監事、四十三年度事業報告及同

決算、四十四年度事業計画及同予算の理事会、委員会提出に関する審議

昭和四十四年度 事業計画

「甲陽だより」発行に伴つて感じること
は、その都度予期以上の多数会員の方より、住所不明者の教示、名簿の照会、年会費の振り込みなどいたくことで、同窓会に対する

関心が強いことをよろこんでいます。同窓会の運営発展の根底をなすものとして、何としても名簿の整備が第一と考えられますので、今年度も引き続き鋭意原簿カードの整備を継続してその完成を期すると共に、之によつて会員相互の一番緊密な連絡、親睦を図つていきたいと思つております。

甲陽の歴史に関する書籍類等の蒐集も一層広く呼びかけて協力を願ひ、できる限り多数収容して立派なものにしたいと思います。これらの点については「甲陽だより」、「諸会合等機会あることに広く訴えて、会員各位の協力を願つて推進したいと思つています。年次計画としては次の如く予定してまいります。

昭和四十四年

四月 理事会、総会（委員会）昭和四十三年度事業報告、決算報告並びに四十四年度事業計画、予算案承認

五月 理事会、委員会（大会打合せ、「甲陽だより」発行打合せ）

七月 理事会、委員会（大会準備、「甲陽だより」発行）

八月 委員会（大会開催）

九月 理事会、委員会（大会後始末、反省会）

十一月 委員会（「甲陽だより」発行打合せ）

昭和四十五年

一月 委員会 「甲陽だより」発行

三月 会長、副会長、専務理事、常務理事、常任監事、昭和四十四年度事業報告並びに決算報告、昭和四十五年事業計画、予算案審議

理事会 役員改選準備

以上のほか、母校の重要な行事にはできるだけ参列して、同窓会と母校在校生との親睦連絡を保つていくよう努めたいと思つてい

昭和四十四年度 予算表

昭和四十三年度 決算報告

| 科目 | 予算額 | 摘要 |
|------|-----------|---|
| 収入之部 | | |
| 会費 | 800,000 | 新入会員200人予定 会費800人予定 |
| 利息 | 120,000 | 50周年記念事業基金(信託、定期)利息100,000繰入 |
| 雑収入 | 10,000 | |
| 繰越金 | 278,736 | |
| 計 | 1,208,736 | |
| 支出之部 | | |
| 人件費 | 100,000 | 専任員給料並学校事務室謝礼 |
| 交通費 | 50,000 | |
| 需要費 | 30,000 | 通信費5,000 事務用品10,000 事務用雑費15,000 |
| 会議費 | 80,000 | 委員会(夕食茶菓代) 総会費 |
| 事業費 | 540,000 | 甲陽だより(2回)320,000 大会費150,000 卒業生記念バツジ20,000 同窓会育成費50,000 |
| 雑費 | 30,000 | 振替料16,000 慶弔14,000 |
| 予備費 | 378,736 | |
| 計 | 1,208,736 | |

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 摘要 |
|--------|---------|-----------|--|
| 収入之部 | | | |
| 会費 | 250,000 | 817,000 | 43年度新入会費 213人 426,000 年会費 777人 388,500 次年度 5人 2,500 |
| 利息 | 100 | 10,608 | 銀行普通預金利息 |
| 寄附金 | 20,000 | 0 | |
| 雑収入 | 30,000 | 170,340 | 大会費136,500 (1,500×83人 500×24人) 名簿売却代33,840 |
| 繰越金 | 581,823 | 581,823 | |
| 計 | 871,923 | 1,579,771 | |
| 支出之部 | | | |
| 人件費 | 180,000 | 91,180 | 専任員給料47,040 学校事務室13,000 事務整理アルバイト31,140 |
| 交通費 | 30,000 | 30,000 | 合田専務理事交通費及雑費 |
| 需要費 | 110,000 | 59,675 | 通信費3,685 事務用品51,990 事務用雑費3,400 灯油600 |
| 会議費 | 29,000 | 60,704 | 委員会(9回)夕食菓子代等33,400 母校側と懇談会27,304 |
| 事業費 | 400,000 | 609,536 | 甲陽だより2回294,165 大会費 234,521 振替用紙36,000 名簿 (今次卒業生)32,500 バツジ 代8,250 記念写真粘他4,100 |
| 雑費 | 50,000 | 24,940 | 振替手数料16,440 下川先生香 典1,500 事務所新設菓子料7,000 |
| 予備費 | 72,923 | 425,000 | 事務室備品159,500 在学同窓会 15,500 谷本先生餞別50,000 母校寄附金200,000 |
| 計 | 871,923 | 1,301,035 | |
| 次年度繰越金 | 278,736 | | |

会員名簿整理について

甲陽だより第九号に第八号の甲陽だよりが返戻となった会員の方々の氏名を記載致しました所が御親切に御通知下されて台帳の整備に役立ちつ、あります。更に第九号が返戻となつた分がありますので段々と追いつめていつて台帳を万全なものになしたいと思ひます。重ねて会員の皆様の御協力を呼び掛けることにいたします。御存知の方は是非御一報をお願いいたします。

- 第五回 谷口恒治、平野利夫
- 第六回 大橋保次
- 第七回 岩本英雄
- 第八回 村上知広、田坂久良
- 第九回 土橋真雄
- 第十回 茂夫

- 第十二回 大村治男、門脇俊、東貞夫
- 第十三回 原秀夫、中井一彦、家坂聖一
- 第十四回 好井薫
- 第十五回 松岡清
- 第十六回 紅野純郎、山口文次郎
- 第十七回 松本盛二、藤木喬
- 第十八回 弘津建吉、和田信美、余部守男
- 第十九回 河合弘通、山西正夫、高田光夫
- 第二十回 百瀬信政、久保田利秋
- 第二十一回 立川達治、伊藤正
- 第二十二回 湯浅逸郎、石丸孝、富岡英夫
- 第二十三回 岩橋徳爾、渡辺明、前田進
- 第二十四回 池田貞夫、安達芳郎、久保直宏、和泉俊明
- 第二十五回 奥竹緑、河原昭二、川辺政義
- 第二十六回 勝間信治、岡本隆義、上川修一
- 第二十七回 道盛靖治、井上正巳、砂田久雄、真殿和治
- 第二十八回 塚本康造、太田仁志、山本洋介
- 第二十九回 西岡信一
- 第三十回 高橋昭次、西岡信一
- 第三十一回 中川宏、岡田恒夫、渡部昭智
- 第三十二回 岡隆一、谷口忠勝
- 第三十三回 中山三千夫、山内邦弘
- 第三十四回 山畑阿津夫、岸田道彦
- 第三十五回 北村直矢、如中孝夫、安井一正
- 第三十六回 柴田隆、山崎康臣、丸橋明春
- 第三十七回 桂真夫、寺本俊郎
- 第三十八回 矢田忠、守谷巖、岡田敷美
- 第三十九回 高田三男、松本行弘、金子直道
- 第四十回 鯉谷誠、花房正太郎、吉沢正員
- 第四十一回 豊瀬進、樋口勝、奥野汎
- 第四十二回 酒井博、藤井庫夫
- 第四十三回 北川常夫、黒川喜正、前田真孝
- 第四十四回 星野立、泥光重、岡崎修三
- 第四十五回 中井弘一郎、松崎紀樹
- 第四十六回 田坂英樹、九一忠雄
- 第四十七回 浜田勇治、大辻孝雄、斎藤晴彦
- 第四十八回 細田順弘、梶吉宏、木村一郎
- 第四十九回 曾我昌俊、府賀伸彦、小川全夫
- 第五十回 高橋伸嘉、府賀伸彦、小川全夫
- 第五十一回 相沢繁昌、小山栄三、溝江優
- 第五十二回 伊藤繁昌、松井弘、柄谷勝
- 第五十三回 広瀬凡夫、松井弘、柄谷勝

第四十五回 藤村景清、田部裕章、大橋 勝

第四十六回 水谷哲也、永井卓也

第四十七回 本庄政昭、戸川 章、上田 宏

第四十八回 三上不二夫、山本恒誠、天野宏

第四十九回 細見隆寛、赤間源司、山崎和行

第五十回 矢野 隆、森定康明、伊藤道明

高商第一回 藤原啓一、照内嘉三郎

高商第二回 川部正義、奥村益夫、武田 積

高商第三回 市川 弘

高商第四回 河野克美、篠原章人

高商第五回 小野治、田中敬次郎、松下幸夫

高商第六回 以上

高商第七回 以上

高商第八回 以上

高商第九回 以上

高商第十回 以上

高商第十一回 以上

高商第十二回 以上

高商第十三回 以上

年会費経過について

第九号「甲陽だより」にて年会費の状況を発表しましたが、其の後も追加の払込みが三月まで続きました。お陰で皆様御協力を得まして事業報告にも述べました通り第一回の呼び掛けと致しましては予期の成績であったのではないかと思います。ただ、どんな会でもそうあるべきですが、中間層の卒業↓最終の状況は左の表の通りです

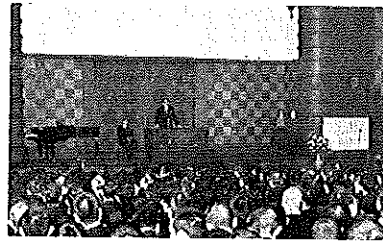
| 期 | 人員 | 期 | 人員 | 期 | 人員 | 高商 | 部員 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 33 | 18 | 18 | 35 | 10 | 1 | 11 |
| 2 | 13 | 19 | 21 | 36 | 6 | 2 | 5 |
| 3 | 13 | 20 | 21 | 37 | 8 | 3 | 14 |
| 4 | 12 | 21 | 23 | 38 | 4 | 4 | 9 |
| 5 | 14 | 22 | 19 | 39 | 15 | | |
| 6 | 8 | 23 | 28 | 40 | 10 | | |
| 7 | 13 | 24 | 18 | 41 | 11 | | |
| 8 | 19 | 25 | 17 | 42 | 8 | | |
| 9 | 9 | 26 | 4 | 43 | 12 | | |
| 10 | 18 | 27 | 6 | 44 | 19 | | |
| 11 | 12 | 28 | 11 | 45 | 30 | | |
| 12 | 14 | 29 | 1 | 46 | 41 | | |
| 13 | 13 | 30 | 1 | 47 | 26 | | |
| 14 | 11 | 31 | 9 | 48 | 53 | | |
| 15 | 28 | 32 | 7 | 49 | 7 | | |
| 16 | 15 | 33 | | | | | |
| 17 | 12 | 34 | | | | | |

お願い 本年度の年会費(五〇〇円)をお払込みください。

原会長代行が祝辞

昭和四十三年卒業式

昨年来泥沼状態を呈している大学紛争の余波を受けて、東京近畿ほか各地の高等学校の卒業式も波瀾含みとなり、本校の場合もそれに先立つ一月末の壮行会(予餞会)に一寸したハブニングがあり些か懸念されたが、例年通り春浅い建園記念の日に無事厳粛且つ和やかに挙行せられ、二百十有余名が巣立つていった。



式は午前十時に始まり校長より卒業生一人一人に証書が手渡され、ついで優等皆勤の表彰、校長の式辞のあと、原副会長から祝辞が述べられ、

↓生が多い割に、協力者を得られなかつた事を淋しく感じています。決算報告にもあります通り、同窓会の一つの目的であります、学校との連がりに僅か乍ら出金いたしました有効に後輩の人々に役立つようにいたしております。母校に対し同窓会の活動する一つの途ではないかとも思いますがどうか同窓の皆様も互いに誘い合つて御協力を本年度もお願い申し上げます。

なお九号にも記載の通り振込みは郵便振替(番号神戸八七四四甲陽学院同窓会)又は銀行振込(三和銀行夙川支店、神戸銀行今津支店甲陽学院同窓会)を利用してあげれば幸いです。

ゴルフ「甲陽会」開催

去る三月二十二日(土)我々昭和二十六年卒業の有志が集り宝塚市の旭国際カントリークラブに於てゴルフコンペ「甲陽会」を開催した。

当日は卒業後十七年経過したにも拘らず幹事松本氏他の尽力により左記十五名が集つた。卒業後初めて出会つた者が多く所々で思い出話に花が咲いた。天候は時折小雪混りのかなりきつ風が吹いたが全般的には快晴でコンディションは最高によく午前九時スタート随所でバンカー等に悩まされながらも日頃の腕前を遺憾なく発揮し和気あいあいのうちにプレーを進めた。

午後五時(ホールは無事終了の結果樋口氏がネット九九(ハンデ二七)で優勝トロフィーを獲得した。なお、ベストグロス太田氏であった。メンバーの大橋氏の好意によりクラブ別室で表彰式少々懇親会を行つたが、久しぶりに逢つた旧友との懐古談に話はずみ時間の経過を忘れさせた。最後に次回を今年十一月に行つてを確約して散会した。なお、同年卒業生でゴルフをされる方は次回には是非参加され度くお願いします。連絡先

は後記します。(瀬能記) 当日の出席者次の通り 松本(和)、太田、松田、小林、池上、中島、喜田、宮尾、北村、樋口(司)、瀬能、大橋、辰馬、八木、東、以上スタート順 連絡先 大阪市北区空町一ノ三一 松本和雄 TEL 三五二六〇三六

寄贈品だより

前回の甲陽だより九号にもお願い致しました通り甲陽学院に関するあらゆるものを蒐集していますが、その後別記の通りの寄贈を受けて同窓会事務室に備付けています。

遠く秋田市より小包として送つて貰つたり、風呂敷包み一杯を提げて持つて来て戴いたりして有難い事と思つています。スチール製の本棚の寄贈もありして結構飾付けも出来まして未だ本棚が淋しいものですからどしどし御寄贈下さい。

お札状をお出し致しているとは存じますが、重ねて甲陽だより誌上より御寄贈の方には厚くお礼申し上げます。

- 一、卒業記念写真 後藤 健一
- 一、第一回 合田 孝治氏
- 一、第三回 後藤 健馬氏
- 一、第十八回 今野 英一氏
- 一、第二十回 柳原 博氏
- 一、著書 回願七十有五年 伊賀校長先生著書
- 一、寄贈者 今野英一氏、太田 登氏
- 一、関係書籍 甲陽(創刊号より六号及十四号十六号) 会誌(五、七、八、九、十、十一号及落成記念号)
- 一、寄贈者 後藤健馬氏
- 一、本棚(スチール製一八〇〇×九〇〇×三〇〇)
- 一、寄贈者 長瀬 勉氏

右のような事で甲陽の歴史を知る上に就いては今のところ大正十三年より昭和六年まで、昭和十五年より昭和三十五年頃までの発行本が不足している次第です。卒業記念写真帳も本年よりは直接買求めていますが従来のは是非各年次共揃えたいものと念願しています。(合田生)

会員だより

第八回 甲陽三三三三会

七回卒 中 島

昨年に引き続き三月三日に河合文雄君の肝入りでレストランパレスに於てクラス会を開



催しました。年一回の集りに十六名の出席がありました。昨年出席出来なかつた人も集り、和やかな楽しい雰囲気になりました。此の「甲陽だより」を御覧になった在阪中の七回生の諸君どうか来年はふるつて御参加下さい。

出席者氏名

- 安部 輝雄、秋本 清英、大西治三郎、河東 利男、金沢 幸雄、北村 善一、熊倉 健一、津田 一太郎、中村 壮二、中島清之助、古塚 綾、橋本 勝弥、浜野 勇、茂幾 信夫、山辺 正

西宮支部会合に出席して 合田生
一月二十二日西宮支部の会合があるとの招きを受けて列席させて頂いた。午後は辰馬酒造の酒蔵を見学させて頂いた。全部機械化された清潔な蔵の中を見て廻つたが、近代化もさることながら、古きものとしては昔のやほり威勢の良い時代の酒蔵の方が懐しいと思つた。

クラス会の記

第二十四卒業 佐野 定敏

第二十四卒業の桃組(五年の時には桜組となる)のクラス会を先日全く久しぶりに行つた。

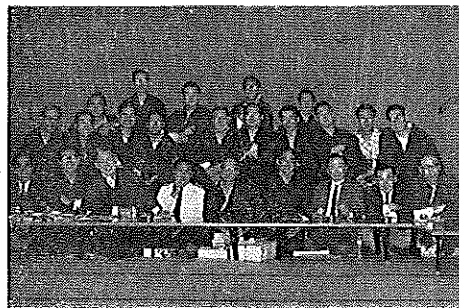
我々のクラスは卒業した昭和十六年と翌々年に集つた事があつたが以後全く集まる事なくばらばらであつた。卒業後すぐに担任の宮崎義雄先生は病氣になられて昭和十九年に亡くなり級友も戦後消息不明の者多く毎年の同窓会には出席するの僕一人であつた。今度是非集まらうと思つて一緒に卒業したものは勿論、卒業しなかつた者でも五年間にたえ一年でも二年でもいた者は消息の分つていない者も呼ぼうと思ひ二十六人に連絡した。二月二十三日(日)正午国鉄大阪クラブに集つた。中島久先生に御出席をお願いした。二十六年振りの集りで卒業後二十八年一回も会つていない者もあり始めは「君は誰であつたか」と言い合う者もいた。話は次から次へはずみ全く懐しい会であつた。今後は閉結して行こうと決心し次回の会合の世話も又僕がするようになら三時半に解散した。

- 中島久先生、佐野 定敏、道工 久、水山 栄一、北村 修造、大川 均、讚井 正敏、松村喜八郎、小沢 正春、北尾郁之助、山内 芳朗、寺内 界、今井 章

「甲梅会」だより

昭和四十四年の「甲梅会」は、サクラに少し早い四月五、六日、有馬温泉「瑞宝園」で開催。(「甲梅会」は昭和十四年に解散した旧梅組、藤原学級のついでです)ことしは藤原英一先生を、初めて東京からお招きしました。昭和十三年二月に出征されて以来、実に三十一年ぶりの恩師との再会といふことで、東京から、島根県から、かけつけた三十四人、さらにゲストとして、当時お世話になつた芳郎塾先生(現日立造船重役)をお招きしたところ、二つ返事で快諾、錦上花を添える

盛大な催しとなりました。ハゲも出つたバラも、三十年前の紅顔時代にかえり、夜の更けるのも忘れ、楽しく語り合いました。われわれの時代の心の通つた師弟愛と深い友情をしみじみと味わつた次第です。(前田記)



哀 悼

小林リョウ刀自

二代校長故小林若助先生未亡人小林リョウ刀自は去る四月七日八十六才を以て死去された。ここに深く哀悼の意を表わす次第である。

宇賀 一郎君(二回卒)
四十四年五月六日死去される。君は甲陽中学創設当初、故榎谷先生指導の遠足部、スキー部の委員として尽力され、一級設計建築士として業界に活躍、貢献される。代表設計建築は、戦前の日本橋白木屋、大阪上宮学園、日本アルプス乗鞍のヒユツテ等多数。